

持続可能な社会の実現のために

日本放射光学会会長
水木純一郎



早いもので今年もまた新しい年が始まりました。明けましておめでとうございます。放射光学会長として2回目の正月を迎え、ここに巻頭言を書くにあたり放射光科学の発展のために何ができるか、何をしなければいけないかを考えたいと思っているのですが、それだけでなく放射光学会が持続可能な社会にするために何をしなければならないのかも考えてみたいと思います。

最近の日本ではあまり明るいニュースがない中、きらりと光るうれしいニュースがありました。山中伸弥教授の2012年ノーベル医学・生理学賞受賞です。普段あまり科学には興味を示さない私の家族もiPS細胞や山中教授に関するテレビや新聞のニュースを興味深く見たり読んだりしています。これは、iPS細胞の発見が偉大であることは間違いないことですが、それだけでなくこの発見が近い将来、確実に医療分野に大きな進展をもたらし、人類に期待と希望を与えていることを表わしています。放射光科学も、実に人類に期待と希望を与える、そのような学際領域分野であると確信しています。

日本はかつて科学技術立国として国内外ともに認められていたように思うのですが、近年ではそれが揺らいでおり、このことが元気をなくしている原因の一つとなっているようにも思います。2012年度に国家プロジェクトの「元素戦略プロジェクト」が開始されたことは皆さんご存知のことでしょう。これは、日本が将来に向けて持続可能な国となり、さらに失いかけた科学技術立国としての自信を取り戻すことができる大変大きなプロジェクトであると理解しています。このプロジェクトを成功させるために放射光が期待され、放射光源が大変重要な施設、装置として位置づけられています。放射光からの成果・情報発信されるのを楽しみにしています。(他人事であってはいけません。)

2011年3月11日の未曾有の東日本大震災とそれに伴って発生した福島原発事故以来、日本はもちろん世界の科学技術政策、とりわけエネルギー政策の大きな転換が余儀なくされています。各放射光施設では、自然・再生可能エネルギーに関わる研究テーマが多く実施されているようであり、SPring-8では国の資金援助を受けた電池関連の研究を遂行するための専用ビームラインが2本稼働を始めています。エネルギー関連だけでなく、創薬、医学、建築、輸送、そしてもちろん様々な基礎科学分野の研究者、技術者が放射光を利用し、たゆまない努力を惜しまず研究されています。このように放射光は持続可能な社会実現のためになくはない光、道具となってきています。

このような状況の下、放射光学会として何をしていくべきか考えてみたいと思います。

1. 情宣・広報活動

学会外の方々に放射光の威力、有用性、必要性を理解してもらうことが重要です。学会主要行事となってきた若手研究会や放射光基礎講習会はこの一環であります。一般市民や、特に高校生、大学学部生な

ど今後の日本を背負って立つ若者への広報活動も必要です。私は2011年から大学に勤め始めましたが、大学生にはもちろんのこと、高校生や中学生に放射光科学の面白さを説明する機会を積極的に持つように心がけています。学会員の皆さんにもこのような活動をお願いいたします。また、尾嶋会長の時に出版しましたブルーバックス「放射光が解き明かす驚異のナノ世界」は解りやすいとの評判です。会員の皆様も高校生への購読を薦めていきましょう。

2. 海外に向けた活動：アジア・オセアニアにおける放射光科学のリーダーシップ

アジア・オセアニアフォーラム (AOFSRR), Cheiron School を放射光学会が日本の窓口となって継続して活動していることはご存知のことと思います。特に今年は、AOFSRR を9月に姫路で開催いたします。できるだけ多くの方が参加され、日本からの研究成果、活動を大いにアピールされるとともに、アジア・オセアニア地域の放射光科学に関する情報交換とお互いの協力で積極的に参加されることを期待しています。ご協力をお願いいたします。さらに今年も引き続き SESAME 支援を通じて国際的な貢献をしていくことが大切です。

3. 他学会との関係強化：日本中性子科学会との協力

放射光と中性子は相補的な量子ビームプローブと位置付けられています。しかし、これまで具体的に協力したイベントはほとんどありません。先に述べた元素戦略プロジェクトに関して、日本中性子科学会と協力して研究会やワークショップを企画することによって異なった分野の研究者の「見合い・出会いの場」を提供したいと考えています。

最後になりましたが、非常に大切な仕事があります。まだ公表はされていませんが、日本学術会議が纏めている「大型計画マスタープラン」の大幅な改定が今年3月にあるようです。これに応えるべく放射光科学のビジョン・ロードマップをまとめていきます。放射光科学を推進し、最先端の成果を創出するためには最先端の放射光源が必要です。欧米だけでなくアジアの各国もどんどん最先端放射光源が建設されてきており、日本にとっては脅威となってきています。科学の分野で2番では意味がありません。放射光ソサイエティーの声をまとめ、放射光科学外の方が読んでも説得力のあるロードマップを作成していかなければならないと考えています。

大変能力のある学会幹事の方々に助けられながら2年目を走り出しました。今年度の幹事の方々を紹介いたします。木村洋昭 (JASRI) 庶務幹事, 唯美津木 (分子研) 会計幹事, 松田巖 (東大) 行事幹事, 玉作賢治 (理研) 編集幹事, 松原英一郎 (京大) 渉外幹事, です。我々放射光学会発展のために尽力いたします。よろしくをお願いいたします。